

## 第9回 練馬区幼保小連携推進協議会 要点録

開催日時	平成27年7月2日(木) 午後5時00分～午後7時00分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	河口浩、田中泰行、戸田了達、瀬田雅江、百丈千鶴、薄井訓子、福田俊彦、土田信行、中村哲明、堀和夫、堀田直樹(敬称略)
	事務局	教育企画課長、学務課長、保育課長、こども施策企画課長 教育指導課統括指導主事
傍聴者	0名	
案件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第8回協議会の協議内容について</li> <li>2 平成27年度幼保小連携研修会の実施報告について</li> <li>3 保護者向けリーフレットの作成について</li> <li>4 (仮称)幼保小連携推進方策の作成について</li> <li>5 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の協議会の開催日程について</li> </ul> </li> </ol>	

### 1 第8回協議会の協議内容について

**会長**

それでは、次第に沿って進めさせていただく。まず、第8回の協議会の協議内容について事務局より説明をお願いします。

**事務局**

- 資料1の説明 -

**会長**

前回の振り返りということで、事務局より資料1について説明があった。委員より何か意見はあるか。

(特になし)

### 2 平成27年度幼保小連携研修会の実施報告について

**会長**

平成27年度幼保小連携研修会の実施報告について、事務局より資料2の説明をお願いします。

**事務局**

- 資料2の説明 -

#### 会長

6月に実施された研修会では東京大学の秋田先生という著名な方に講演いただき、参加者からは大変参考になったという意見をいただいている。また、講演後に設定した意見交換の時間が有意義だったという意見も多かったようである。

研修会に参加された委員もいるかと思うが、参加した際の感想、今後の研修実施に向けた課題など何か意見はあるか。

#### 委員

秋田先生の講演が素晴らしかったことはもちろんだが、昨年度の研修でも実施された講演後の意見交換が非常によかった。昨年度に一度顔を合わせていることもあり、意見交換の開始当初から和やかに話すことができた。新しくグループに入られた先生もいたが、和やかな雰囲気の中あまり固くならず話をし下さり、非常によかったと思う。

意見交換の中で近隣の園同士でドッジボールの交流試合をやることが決まったり、小学校の先生からも「昨年より深く交流できるかもしれない」という話をいただいたりと大変有意義な時間だった。

#### 委員

前もって研修の日程が決まっているということに意味がある。皆さん本当に多忙だが、あらかじめ研修日程が決まっていることが今回の高い参加率に結びついていると思う。小中一貫教育に関する研究会についても日程が決まっているからこそできるという部分があり、幼保小連携の研修会についても同様のことが言えると思う。

#### 委員

意見交換を重ねるごとに各園・校との関係性も深まっており、「何かあった時には気軽に電話ができる」といった雰囲気が少しずつ構築されてきている。現在の研修会の実施ペースは年1回だが、可能であれば年2回程度実施してもよいと思う。

#### 事務局

各園・校ともに多忙のためなかなか日程がとれないという状況があり、現在は年1回の実施ということになっている。委員より複数回の実施について積極的な意見をいただいたので、事務局としても前向きに検討していきたい。

また、秋田先生のような著名な方の講演だけでなく、現場の先生に講師をお願いするなど、研修の実施方法についても創意工夫を重ねていきたいと考えている。

#### 会長

同じ内容を2回やらなくてもよいと思う。例えば、1回目は著名な先生の講演を聞くことで勉強する回と位置付け、2回目は実務的なところで話をしただけの方に講師を依頼し、講演後には意見交換を行うといったやり方もある。ぜひ工夫してみてください。

#### 委員

区立小学校は移動教室があるため、どうしても研修に参加できない学校が生じてしまう。代理で副校長が参加するという考え方もあるが、校長、副校長ともに学校を離れるという状況は望ましくない。区立小学校としても参加率 100% 目指したいが、そのような事情があることはご理解いただきたい。

委員

意見交換の 2 回目というのは本当に 1 回目と全然違うなというように感じた。私たちの地区では昨年度の意見交換以降、様々な取組が実施されている。今年度の意見交換を通してそこに新たな園が加わり、そこからまた交流の実施に繋がるというように、意見交換を積み重ねていくことでどんどん交流が広がっていると感じている。

会長

やはり、積み重ねというのは大事なことなのだと思う。

委員

秋田先生の講演によって「何のための幼保小連携なのか」というねらいの明確化、参加者の意識統一につながったのではないかと。また、意見交換ではそれぞれの立場で受け入れられるところ、難しいところなどを率直に話すことができた。

委員

私もこれまでの積み重ねが実ってきていると感じている。昨年度にお会いした先生とは引き続き連携に関する前向きな話をするのができ、今年度から新たに参加された先生ともよい懇談ができた。少しずつ地区の連携もとれてきており、次につながる意見交換だったと思う。

会長

今後の研修会の実施については、本日委員よりいただいた意見や参加された方々の感想などを踏まえ、よりよい実施方法を模索していただきたい。

### 3 保護者向けリーフレットの作成について

会長

それでは次の案件に移る。保護者向けリーフレットの作成について、事務局より資料 3 の説明をお願いします。

事務局

- 資料 3 の説明 -

会長

保護者向けリーフレットについては、従前よりぜひ作成したいということで話し合いを進めてきた。委員の皆様よりご意見をいただきながら、この幼保小連携推進協議会を象徴するよう

なものを作成し、各家庭に届けていきたいと考えている。各委員には事前にリーフレットが送付されていたようだが、内容について何か意見はあるか。

#### 委員

「小学校Q & A」の項目に「元気な声であいさつをしましょう」とあるが、ただ元気に挨拶をすればよいということではない。幼児期には親しみを込めて挨拶ができるということが一番大事なことなので、「元気な声で」と声だけを強調するのではなく、表現を工夫したほうがよいと思う。

#### 委員

「親子でいっしょに入学準備」というタイトルなので、子供もお母さんと一緒に楽しんで見られた方がよいのではないか。例えば、文字数をもっと減らしたり、イラストを入れて「これを一緒にやってみよう」という話ができるものにしたりと、お母さんだけが一生懸命読んで子供にやらせるというのではなく、親子で一緒に見られるものになればよいと思う。

また、「小学校Q & A」の中の「鉛筆の正しい持ち方」についてだが、「鉛筆を持ってないのだめなのか」というように保護者が不安に感じてしまうかもしれない。幼稚園においても箸の持ち方が鉛筆の持ち方につながるということは保護者に伝えるが、鉛筆を持つことが第一であるというように見えないよう表現を工夫してほしい。

「入学までに家庭で大切にしておくこと」という項目では、小学校への期待感をもたせること以外に自分でできた時の喜びという要素が入るとよいと思う。例えば身の回りのことで、ひもが結べたとか、遊びの中でできないことができるようになったとか、繰り返しやったことが成功につながったということが幼稚園、保育所での生活の中では大事だと考えている。

#### 委員

全体的に文字数が多く、「親子で～」というタイトルの割には親子で楽しめる部分が少ないように感じた。鉛筆の持ち方については少し小さく抑え、もっと楽しめる内容や、小学校に期待を持つ、自分のことは自分でやるといったことに重点を置いた方がよいと思う。

#### 委員

「学校応援団ひろば事業」や、来年から始まる「ねりっこクラブ」についても記載があった方がよい。例えば「小学校Q & A」の中で補足したり、最終ページの学童クラブに関する記載に追加したり、紙面の許す範囲で紹介していただきたい。リーフレットの発行時期については、就学通知書が送付される10月頃を目途に発行されるのが望ましいと思う。

#### 会長

事務局としてはいつ頃までに仕上げる予定なのか。

#### 事務局

10月中の発行を目指したい。一般的に校正終了後の印刷には約2～3週間の期間を要するため、9月中旬には内容を固める必要があると考えている。

**会長**

今後、この原案を元に調査員連絡会の中で検討していくことになるかと思うが、あれもこれも盛り込みたいということになると期間内にまとまらない可能性がある。

例えば、予算の制限もあるとは思うが、ページ数を多くして見た目をもう少しやわらかいものにするなど、子供と保護者が一緒になって楽しめるようなものに変えるということは可能なのか。

**事務局**

8月26日に実施する調査員連絡会の前に本日いただいた意見を踏まえて構成を見直したい。予算的にはリーフレットのページ数を増やしてもそれほど大きな影響は出ないと考えている。

**会長**

リーフレットについては適当なページ数というものがあり、当然ただ増やせばよいというものでもない。編集の方針をどこに置くのか、誰に見てもらいたいのか、最初にそういうことを明確にした上で考えていく必要がある。いずれにせよ、子供に対して小学校への期待を抱かせるものにするのであれば、もう少し内容を工夫する必要があると思う。

**事務局**

これまでの協議の中では、いわゆるガイドブック的なものにするにはよくないといった意見をいただいている。この原案についても当初はA3の見開き程度のものを用意していたが、調査員連絡会の皆様に意見をいただく中で現在のページ数になったという経緯がある。今回の協議会でいただいた意見を踏まえて再度調査員連絡会で検討し、まとめたものを協議会の委員の皆様にも早い段階でごらんいただけるようにしたい。

**会長**

小学校の立場から見て、何か意見はあるか。

**委員**

保護者の方が知りたいことや不安に思っていることについて、段階を踏んで考えていくことが大事だと思う。ここに書いてある内容は、1・2月に行う新1年生の保護者説明会において各学校で説明する部分も入っているが、この段階ではもっとやわらかく「学校は楽しいよ」という雰囲気でもよいと思う。例えば、小学校の時間に「5校時」と書いてあると、いきなり午後も授業をするのかと勘違いされてしまう可能性があるし、学習の内容についても具体的なことを書き過ぎると全部網羅できるわけがないということになる。細かい点については1・2月に各学校の保護者説明会で説明されるので、とりあえずは保護者や子供たちが学校に対して自然に入っていけるようなリーフレットを考えた方がよいのではないか。

また、配付する時期との兼ね合いが大きく、小さい時期からやってくれていたらありがたいこともあるが、鉛筆の持ち方の記述は表現を工夫してもらいたい。

**委員**

私はもちろん分かりやすい内容のリーフレットもよいとは思いますが、このリーフレット案のように具体的に書いてある方がよいのではないかと思う。行政が作成する啓発のパンフレットは、いろいろと紆余曲折はあるのだろうが、簡単なものはすごく簡単な内容になってしまい、もらって意味があるのかというようなものも多いと感じている。小学校の時間割なども知らない人は全く知らないで、具体的な情報が保護者向けに書かれており、それを見た保護者が早い段階で心の準備をできるという意味では、細かく書いてあることは必ずしも悪いことではない。「小学校Q & A」も確かに文字は多いが、大切なことが書いてあると思うので、もう少し簡潔にできればよいのではないか。お母さんたちがじっくり読むことで、小学校に向けての家庭での子供との接し方を改めて考えるきっかけにもなる。

また、交流の写真を掲載することで、親子で写真を見ながら交流について話をするができる。交流を実施していない園に通っている場合であっても、他の園ではこういうこともやっているのだと知ることができるのはよいことだと思う。

最後に、「できるかな?!」という項目に「じぶんのなまえがよめますか?」とあるが、1年生になった時点で読めないといけないものなのか、それとも小学校で習って初めて読めるという前提なのか。リーフレットを見て、卒園までに読めなければいけないものだったかなという点を疑問に感じた。

#### 委員

小学校では入学してから順番に平仮名を勉強していく。ただ、げた箱や机には自分の場所が分かるように名前を貼っているので、自分の名前は読めた方がよいと思うところもある。

また、先ほどの私の発言の趣旨だが、生活時程を載せないほうがよいというわけではなく、小学校生活をスタートする時の生活時程を載せたほうがよいのではないかという意見である。1年生の場合、5校時まで入っている時程はかなり後のことになるので、入学の時にはこんな感じでという説明が加わっていれば、保護者の不安を取り除く要素になると思う。

#### 委員

入学までに身につけておくこととして、「生活リズムの見直し」、「挨拶」、「トイレ」、「手洗い」、「自分で着替え」とあるが、こういったことは幼稚園・保育所で一生懸命取り組んでいる。年長になったらできているはずなので、「きちんとできていますか確認してください」という書き方にしていきたい。

#### 委員

幼保小連携が始まったきっかけは、幼稚園・保育所で身につけてきたものを小学校でしっかりと受けとめた上で教育をするということだったと思う。鉛筆の正しい持ち方や名前を書くということは、幼稚園・保育所で身につけてきたものというより、小学校1年生の国語の指導内容となる。それよりは、小学校では大きなプールで泳ぐことができるといったように子供が小学校の楽しさを感じ、期待感をもてる内容に重点を置いた方がよいと思う。

#### 委員

小学校に向けた準備や学校の流れなどを載せることはよいことだと思う。ただ、お子さんと

一緒に読むものだとすると、小学校ならではの魅力や楽しさを紹介し、お子さんが期待をもてるような内容があるとよい。また、他の委員からも指摘があったとおり、鉛筆の持ち方についてはあまり強調しなくてもよいと思う。

#### 会長

大変多くの意見をいただいた。次回の調査員連絡会は8月26日ということだが、今回の協議会で出た意見を調査員の皆様にお伝えして、そこから検討していくという方法では9月中旬までに完成させるのは難しいと思う。

調査員連絡会まで待つのではなく、事務局において今回出た意見を踏まえた原案を作成し、8月の調査員連絡会で出せるように準備をしておいてほしい。

#### 事務局

そのように準備を進めていく。

ただ、このリーフレットは保護者に対して何らかの支援、取組ができないかということから始まったという経緯があり、原案の記述はその流れを踏まえたものになっている。子供が見て楽しいものにシフトすると、当初目的としていた保護者の不安を取り除くという要素は若干欠落してくるようになると思う。

これから事務局でリーフレット案を作成するのにあたっては、保護者に向けたもの、子供も楽しめるものを両方記述するような形で考えていきたいと思うが、その際の軸の置き方について確認したい。

#### 会長

両方の視点を反映させていく必要がある。この原案は保護者向けだとしても文字数が多いと思う。見出しについても保護者が関心を持てるような表現にしてもらいたい。

8月の調査員連絡会に提出する際には、あらかじめ協議会の委員の皆様にも内容を確認していただくという体制をとりたいと思う。ご協力をお願いしたい。

#### 4 (仮称) 幼保小連携推進方策の作成について

#### 会長

次の案件に移る。案件4の(仮称)幼保小連携推進方策の作成についてだが、この案件は前回の協議会において私から提案させていただいたものである。幼保小連携の協議を開始してから3年が経過したが、議会への正式な報告はまだ実施しておらず、言い換えれば区民の方々に対してまだ報告できていないということになる。協議会設置から3年が経過したこの段階で、これまでの経緯、成果、課題などについて整理し、区民の皆様方に示したいと考えている。

それでは、事務局から資料4の説明をお願いします。

#### 事務局

- 資料4の説明 -

会長

これは年度内にまとめるという目標でよいのか。

事務局

そのとおりである。今年度中に区民への説明責任を果たしたいと考えている。

会長

この件についてはまだ時間があるようである。本日の資料は骨子案という位置付けで、中身はこれから検討していくということでしょうか。

事務局

そのとおりである。

会長

各委員より意見、質問などがあればいただきたい。

委員

配慮を要する幼児・児童に関する職員間の情報連携についてだが、参考資料4というのは小学校、中学校間で用いられている資料ということか。

事務局

そのとおりである。小中一貫教育を推進していく中で、学年に応じた固定的な指導をすることだけではなく、参考資料のようなものを用いることで、9年間の中での育ちを確保するという目的で作成したものである。

委員

これを幼稚園、保育所から小学校に上がる子供にも作っていくということか。

事務局

調査員連絡会ではそこまでの議論はされていない。こういったものを参考にしながら、何らかのツールを作っていくという試みはどうかということで提案したものである。

委員

幼児から小学校入学にかけては様々な症状を示す子供がおり、これだけではまとめ切れない。むしろ、まとめてしまうとおかしなことになるのではないかと。何らかの取組は必要だろうが、この資料のような形式にはならないと思う。

会長

今日の時点ではこういったものもあるという紹介であり、中身についてはこれから議論していくという認識でよいのか。



#### 事務局

そのとおりである。

#### 会長

この件についてはかなりセンシティブなところがあり、十分協議を重ねた上で慎重にやっていかないと誤解される可能性がある。もし、この方策の中に入れ込むのであれば、十分な協議が必要だと思っている。

#### 委員

構成案についてだが、第1章が「幼保小連携推進方策の作成にあたって」というタイトルで、「1、幼保小連携が求められる社会的背景」、「2、練馬区における幼保小連携推進の取り組み」という構成になっている。そして、第2章は「練馬区における幼保小連携の現状と課題」というタイトルになっているが、第1章の求められる社会的背景の次には、現状が来るのではないか。社会的背景と練馬区の現状があるから第2章で取組が出てくるという流れが自然だと思う。

#### 会長

委員から意見があったように現状は第1章に記述し、その上で第2章の一番上のほうに幼保小連携の取組状況について記述したほうがよい。

#### 委員

第3章の1に記述されている「幼保小連携のめざすものと取組の方向性」というのは、当初設定したものであり、今後の幼保小連携の進め方というものとは整合性がないように感じる。

#### 事務局

目指すものを踏まえた上での具体的な施策ということを表現したかったのだが、確かに少し矛盾があると思う。意見を踏まえて修正する。

#### 会長

時系列で作成するのであれば、第1章には背景として幼保小連携の組織ができる前の現状、第2章には幼保小連携の組織ができた中でどのように議論がされ、どういった成果が上がってきたのかということ、第3章はこれからどのような方向性で取り組んでいくかということがそれぞれ記述されるといった形で一本筋の通った流れがあればよいと思う。方策の作成方法は色々あるのでこの流れが最善とは限らないが、仮に時系列で作成するのであれば、これが一番分かりやすいと思う。

#### 委員

配慮を要する幼児・児童に関する取組についてだが、これは幼保小連携の方策の一部として特別支援の子供のことも盛り込むということなのか。

#### 会長

事務局としては大事なことなので、課題の1つとして加える必要があると考えたのか。

事務局

そのとおりである。

会長

事務局から説明があった2つの項目は、これまで詳細に議論されてなかったが、今後の課題として方策に載せた方がよいのではないかという提案だと思う。そのような意見が調査員連絡会で出たということなのか。

事務局

調査員連絡会において事務局から提案させていただいたところ、調査員からも前向きな意見が聞かれたので、協議会への報告を含めて今回協議の場に出させていただいた。

委員

特別支援に関するテーマは非常に大きく、この幼保小連携の協議の場で一度触れ始めるとそれだけで大部分を占めてしまう。そのため、これまでは特別支援に関することはとりあえず置いておき、それ以外の課題や取組について話をしようということになっていた。先ほど説明があった特別支援教育推進委員会は、そういう流れを踏まえて幼保小連携の枠組みとは別の会議体として設置されたものだと認識していたが、そうではないのか。

事務局

そのとおりである。方策としてまとめていく際は、この件は切り離して作成するというのも考えている。むしろ、これまでの経緯を踏まえるとそれが適切だともいえるが、これから方策の具体的な内容を検討していくのにあたっては、協議会からも様々な視点から意見をいただき、作成していきたいと考えている。

会長

本日は大変貴重な意見をいただいた。次回は各委員の意見を踏まえ、もう少し詳細な内容を提出していただきたい。次回はいつ頃実施されるのか。

事務局

12月を予定している。

会長

12月ということであれば、協議会資料としてかなり詳細なものが必要になる。方策の内容については調査員連絡会の方で詰めてもらいたい。また、次回の協議会までは期間が空いているので、場合によっては、協議会の委員の方々に事前に資料を送付して内容を確認していただくといったことも必要かと思う。

本日用意された案件は以上となるが、全体を通して何か意見はあるか。

**委員**

資料4の幼保小連携推進方策の構成案についてだが、幼保小連携が求められる社会的背景というところに「幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領の改訂」とあるが、前回の改訂からはずいぶん時間が経過している。ここでは改訂として記述するのではなく、その内容を記述していく必要があると思う。

**会長**

確かに、改訂があったという事実だけではなく、改訂の趣旨を記述した方が背景としては望ましい。

**委員**

幼保小連携が求められる社会的背景として「小1問題の対応」とあるが、小1問題が実際にどういうもので、具体的にどういう問題が起こっているのかということが情報として入ってこない。この協議会の中だけでもよいので、いくつかの具体的な事例を教えてください。幼稚園と保育所にも何らかの原因があるかもしれないし、あるいは社会的な背景があるのかもしれない。それが全くわからないので、暗中模索している状況にある。卒園生にどのような問題が起きているのかということは非常に心配な点なので、ぜひ、今後具体的なものを提出していただきたい。

**会長**

委員から指摘があったのは、まさに幼保小連携の根幹の部分である。事務局の方で情報を収集してもらい説明できる機会をつくっていただきたい。

本日は主に保護者向けリーフレットと、推進方策の構成案について意見をいただいた。次回の協議会まで若干時間が空くので、その間も委員の皆様にはできるだけ情報提供をさせていただきたいと思う。

これで第9回の練馬区幼保小連携推進協議会を終了させていただく。

(閉 会)